

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493100018	事業の開始年月日	平成18年4月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	株式会社ツクイ			
事業所名	ツクイ大久保サンフラワー			
所在地	(233-0007) 神奈川県横浜市港南区大久保3-38-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月1日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・暖かい雰囲気職場で、職員それぞれが持ち合わせる家事都合なども互いに協力し合っ  
て職員間、及びスタッフと職員間のコミュニケーション、人間関係が良好で開設以  
来(4年目)退職者が少ない。  
・地域の方々のボランティア協力が多くあり。歌謡訪問演奏会、和太鼓演奏や ま  
た、近隣農家の方からは花の差し入れなどある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社R-CORPORATION		
所在地	横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成22年1月13日	評価機関 評価決定日	平成22年2月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

◆最寄のバス停から徒歩7分の小高い見晴らしの良い、閑静な住宅街にある鉄骨2階建ての  
グループホームで玄関、廊下、居間、トイレ、食堂、浴室、の全てが清潔で清掃が行き届い  
ており、ホームのいずれの場所にも悪臭や騒音がない。食堂兼居間は日当たりもよく窓から  
は周辺の木々が見渡せ、季節も感じる事ができる。続きに畳敷きの居間でコタツが置かれく  
つろぎの場が構成されている。  
◆株式会社ツクイは居宅サービス・地域密着型サービス・居宅介護支援・介護予防サービ  
ス・地域密着型介護予防サービス・等を幅広く福祉事業を展開している法人であり、事業の  
ネットワークがグループホームの告知に寄与し、訪問介護からのグループホームへの転入居  
者が多い。  
◆ツクイ大久保サンフラワーでは身体拘束防止委員会を設け、内外研修を通じ拘束のないケ  
アの重要性を全職員で共有し、鍵の掛けないケアを家族の理解と地域の協力も得て実現して  
いる。  
◆大久保サンフラワーでは地域社会との共存を目指すと共に、常に質のよいサービスの提供  
を行う為、入社時の接遇訓練を始め、介護の基礎研修など本社の協力の基、計画的に研修を  
(2ヶ月に1回程度)行い、全員職員で自己啓発に取り組んでいる。大久保サンフラワーの  
ホーム方針では“世界一のホームにします”を謳いあげ日々の業務に取り組んでいる。  
◆地域自治会に加入し地域行事への参加と共に、運営推進会議を通じ災害時協力などホーム  
の出来る事、ホームがしてもらえること、等を話題として今後も継続して話し合える良好な  
協力関係が地域との間で築かれている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ツクイ大久保サンフラワー
ユニット名	せせらぎ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざし、地域の一員として交流を深め、助け合い暮らしていくという思いを込め理念を作り実践している	理念「1. 幸せと感じる時を大切にします2. 一人ひとりの気持ちに寄り添いお互いの心を大切にします3. 笑顔で対話！楽しい食事！ゆとりのある時間を大切にします4. 地域社会と共存を目指すと共にケアスキルを向上し、常により良いサービスを提供します5. 世界一のグループホームにします」を事業所独自でつくり、名札に刷り込み常に身につけて、管理者と職員は理念にそって入居者の個性を理解し尊重し、その人にあった支援を実践している。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入させて頂き、地域の情報を得ている。自治会の催物への誘いもあり、可能な限り参加させていただいている	地域の繋がりとして夏祭り、運動会等自治会の催物には出来る限り参加し、またホームでは近隣の保育園と共にバーベキューパーティーを開催したり、日々の散歩時には積極的に挨拶を交わすなどで地域の方々との交流を図っている。近くの農家の方からは、花の差し入れを戴くなどの関係が構築され、地域交流が行われている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の認知症理解の講座で認知症に関する正しい理解を参加された地域の方々に口演すると共にいつでも相談できるところという認識を持っていただいた		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施している。近況報告、現在取り組んでいるサービスについて報告をし意見を求めサービスの向上に役立てている	推進会議は民児委員、自治会長、家族代表、ケアプラザ所長、グループホーム管理者、ケアマネジャーの出席で2ヶ月に1回開催され、ホームの活動報告と防災時の備蓄準備、虐待、看取り介護等を議題にし、災害時に備えた食料（ご飯、水等）備蓄の提案を頂き開始した。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	在宅からかかわりのあるケースワーカーには、実情の報告をしアドバイスを受けたことがある	区の担当者とはホーム空き室情報をはじめ、在宅介護時から関わりのあるケースワーカーとの実情報告及びアドバイスを受ける等の連絡と、各種研修の情報提供を受けるなど、協力関係を築いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設けている。また、定期的に全職員を対象に勉強会を持って、身体拘束が及ぼす弊害について学んでいる	身体拘束防止委員会を設けていて、内部研修や県グループ協議会の情報による研修会に管理者及び職員の参加で「拘束の無いケア」の重要性は理解されている。玄関、そして居室にも施錠はなく、施錠のない介護を職員の見守りと家族の理解、ご近所の協力に対応している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けての勉強会を設けている。外部研修で学んだことを周知するなどしている。また、カンファレンスでスタッフが対応に悩んでいることがないか話を聞き対応方法を検討している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護保険の基本的考え方としての自立支援を職員はよく理解している。支援方法などについては視点がぶれないようカンファレンスで話し合っている。青年後見人制度については外部研修参加にとどまっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間に余裕を持ち説明には解りやすい言葉を使い不安や理解不足がないよう努めている。また、疑問点がないかの確認は説明の都度に行い不安を残さないよう対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の通信でどんな意見でも寄せていただけるようアンケートをお配りしている。また、面会の際には要望などを伺いサービス向上に努めている	入居契約と重要事項説明書で苦情の窓口と相談対応について明記し、契約時に説明している。また毎月の大久保サンフラワー通信で生活状況のお知らせと意見を寄せていただくようにアンケートを配り、意見要望を収集して検討の上、運営に反映させるようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者へは職員は気軽に意見提案がなされている。また、必要に応じて管理者が上司に繋いでくれる仕組みになっている	月1度のカンファレンスや連絡ノートも活用し職員の意見を聞くようにしている。職員間の懇親も自発的に実施され、フランクに意見が言える状況が出来ていて管理者へも直接気軽に意見、提案がされ管理者から上司に繋がる仕組みが出来ている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境に努めている。適正な労働時間・条件になるように管理している、また、年1回勤務状況等を考慮しての評価制度があり給与等に反映している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の支援制度がある。職員が法人内外の研修に参加でき、資格取得の為のバックアップがある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修は毎年実施し職員が他施設との交流を図りスキルアップにつなげられるような取り組みを積極的に行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを察し、対応、特に言葉かけに注意をし、不安なく過ごせる環境づくりに励んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、本人の主訴に耳を傾けアセスメントをしっかりととり、これまでのご苦勞やこれから始まる暮らしへの不安をしっかりと把握し、望む生活への支援に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況を客観的に把握、整理しながら、どのようなサービスが良いのか提案をしている。必要に応じて関係機関の情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重している。あくまでも自立支援を意識している為、介護する側、される側という意識はなく、共にその人らしい生活を築きあっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしている。家族と共に本人の力に感心を寄せ共に本人を支えているという認識を持っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を家族から聞いておりなじみの人や場所についても把握している為、日常的な会話、散歩時の会話でも意識的に話すようにし、信頼関係を保てるようにしている	入居者の様々な希望や生活習慣を聞きホームでは「希望の聞き届け」を全職員で共有し、入居者の思いに耳を傾けている。入居者の入所以前に住んでいた家に行きたい、との希望を受け、家族同意の元、案内し、入居者の思いをかなえた事例もある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のやり取りから、相性を見てレクリエーション時の席を決めている。内容によっては孤立しがちな方に対してはスタッフが別メニューで係わるなど孤立させない努力をしている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、他施設入所に関しては退去後の様子を伺うことはあるが継続的には行っていない		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。家族からも話を伺いできる限り意向を汲み取り支援策を検討している。状態の変化があっても利用者本位を忘れず、支援方法に生かしている	日々の会話から聞き出し、言葉で聞きだせない方には日々の行動から汲み取る様にしている。過去の生活歴や経験などを個人記録から把握し結果を、カンファレンスで話し合い全職員共有の上、介護計画に取り入れ対応している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントツールを使い把握に努めている。また、生活の中でのスタッフの気付きも共有し、より本人を理解する情報として役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケアプランに基づいた1人1人の1日の過ごし方を支援している。カンファレンスでモニタリングをし支援方法を話し合い現状態に合わせたものにして自立を促している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは家族の満足度本人の要望も取り入れケア方針を話し合っている	利用者本人や家族の意向と職員の日々の観察記録に記載された気付きを基に、3ヶ月に1度全職員参加で行われるカンファレンスで検討し、現状に即した介護計画を作成し家族の同意を得ている。急変事は随時対応をしている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに日々の様子やケアの実践を記録している。また、結果・気付きなどは連絡ノートを活用し全員が確認できるようにしている必要に応じてカンファレンスを実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。職員からの情報、家族の不安の軽減などを考え柔軟に支援している。特に急激な変化については対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方の鉢植えや花壇などを見ながらお話をしリラックスして楽しく暮らしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を優先している。本人のなじみの先生との関係を大切にしている	重要事項説明でかかりつけ医の受診支援を謳っている。現在かかりつけ医の診療は3名いる。他は医療連携体制の下、協力医で受診している。受診については、いずれの場合もホームの車で送迎をし家族と職員で対応している。かかりつけ医、協力医とも受診結果は家族と共有している。	今後の継続



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療に関する相談、指導を受けている。必要に応じて往診医への連絡も取ってもらい介護職員の不安を軽減、入居者への適切な看護が受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には治療の経過の把握、本人の不安の軽減の為病院に面会に行き必要に応じて医師との面談も行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。地域の関係者へも運営推進会議にて報告をホームでの支援状況を伝えている。チームで支援する事は現状ではない	重度化及び終末期対応として往診専門の提携医（24H対応）の協力に加え、ホーム職員の看護師を有していることに伴い、家族の同意の下「看取り介護」を行う事を事業所方針としていて、全職員で理解共有ができています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員入社時に救急・初期対応の研修を受けている。継続的に事故の事例等を使い研修を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・自然災害時の協力が得られるよう（自治会が対応できる範囲で）運営推進会議で話し合い理解を得ている	緊急連絡網、緊急対策マニュアルを作成し、入居者、従業員を含めた事業所独自の避難訓練が年2回（4月、10月）実施され、記録もある。煙感知器も設置されている。災害時対応物資の衣料、水、食料などの保管も行われている。自治会で対応できる地域避難場所への誘導など協力の話し合いが出来ている。火災自動通報装置、スプリンクラーをH23年までに設置の計画をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は人格を尊重し本人の現状も肯定的にとらえる努力をしている	職員とは個人情報保護取り扱いの契約を交わし、個人名がある記録などは施錠のある事務所内の書棚に保管されている。利用者を人生の先輩として敬い常に一人ひとりの人格を尊重し、会議や日常の話題にして全職員で共有している。不遜な言動などに気付いた時はその場で管理者や職員同士でも注意を促すように心がけられている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は必ず本人の意志をまずは確認するようにしている。気持ちにより添いつつ必要な促しは多くの声かけ途タイミングを見て行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。また、無理のない支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。必要に応じて家族の協力を得ることもある		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを大切にし参加していただいている。食事の形態にも状態に合わせ配慮している。満足度、安全を心掛けている	日常のメニューは外部食材業者を利用し職員で調理している。月に1度の利用者のリクエストや朝食、終末の食事は職員による材料調達と調理で対応している。又調理手伝いは出来る方に手伝っていただいている。盛り付け、下膳が調査時の昼食同席で、利用者が自発的に行われている事が確認出来た。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分量は1日の量が確認把握ができるように記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアにくわえて就寝時には義歯使用者の義歯の消毒を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の意思表示の難しい方については排泄のリズムを把握し誘導している。オムツが必要な方に関してもなるべく失禁をなくすよう声かけ誘導している	入居者一人ひとりの排泄パターンを個人記録に記して全員で共有し、さりげなくタイミングの良い誘導でオムツ使用を増やすことの無いよう心がけて支援している。男性入居者で立って小用を足すのが難しい事に気づき、座りに切り替えての誘導で、オムツが取れた事例がある。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の便秘が及ぼす影響を理解し、排便状態を申し送りなどで行い食事水分運動を必要に応じて医師との相談のうえ服薬も取り入れている		今後の継続
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	当日の入居者の様子、意志を尊重し柔軟に対応している。必要な方には本人が納得するような言葉かけを行ってみている	入浴は季節に合わせて菖蒲湯やさまざまな香りの入浴剤などの採用で、3日に1度で行われている。各人の体調や意思を尊重して無理強いすることなく入浴を嫌がる方にも会話誘導で行われ、安心して楽しめる工夫もされている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の様子を申し送り体力を考慮し時間を決めて休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確認できるよう個別の薬箱には最近の薬の説明書を入れてある。薬の変更は連絡ノートを活用している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている。レクリエーションも好むものが何なのか把握し負担なく楽しめるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日は実施できていないが本人の身体状況を見て目的を持った外出は取り入れている	日常は天気の良い日にホームの近くの散歩を行っている。個々人の要望で買い物などは職員と共に出かけている。また季節に合わせた梅、桜、などの花見や、鎌倉、江ノ島などにもホームの送迎用車で出かけ、年に1度は家族共々の食事会を行っている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物同行時に支払いをお願いする事がある。個人で自分のお金を（小額）使っている方は1名いる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている。希望があれば電話をかける。受け継ぐなど行っている。手紙に関しては家族の協力を得て行っている方がいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れながら落ち着ける飾り付けを心掛けている	館内は清潔で清掃が行き届いている。ホームのいずれの場所にも悪臭や騒音も無く、食堂兼居間は日当たりも良く窓からは木々が見渡せ季節を感じる事もでき、続きに畳敷きでコタツを置いたいたスペースも確保され居心地よく過ごせる工夫がされている。壁面には入居者の作品も飾られている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を取り入れくつろげるよう考えている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ではなじみの環境を重視し本人・家族で準備できるようアドバイスをしている	室内には、ベットをはじめそれぞれの馴染みの品物で整理棚、家族写真などが持ち込まれ、各人の個性あふれる設えの居室になっている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目標を付け表示が分かるように工夫している。職員は理解がどの程度出来るかを把握する為声かけ誘導を行っている		

事業所名	ツクイ大久保サンフラワー
ユニット名	ひだまり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざし、地域の一員として交流を深め、助け合い暮らしていくという思いを込め理念を作り実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入させて頂き、地域の情報を得ている。自治会の催物への誘いもあり、可能な限り参加させていただいている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の認知症理解の講座で認知症に関する正しい理解を参加された地域の方々に口演すると共にいつでも相談できるところという認識を持っていただいた		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施している。近況報告、現在取り組んでいるサービスについて報告をし意見を求めサービスの向上に役立てている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	在宅からかかわりのあるケースワーカーには、実情の報告をしアドバイスを受けたことがある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設けている。また、定期的に全職員を対象に勉強会を持って、身体拘束が及ぼす弊害について学んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けての勉強会を設けている。外部研修で学んだことを周知するなどしている。また、カンファレンスでスタッフが対応に悩んでいることがないか話を聞き対応方法を検討している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護保険の基本的考え方としての自立支援を職員はよく理解している。支援方法などについては視点がぶれないようカンファレンスで話し合っている。青年後見人制度については外部研修参加にとどまっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間に余裕を持ち説明には解りやすい言葉を使い不安や理解不足がないよう努めている。また、疑問点がないかの確認は説明の都度に行い不安を残さないよう対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の通信でどんな意見でも寄せていただけるようアンケートをお配りしている。また、面会の際には要望などを伺いサービス向上に努めている		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者へは職員は気軽に意見提案がなされている。また、必要に応じて管理者が上司に繋いでくれる仕組みになっている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境に努めている。適正な労働時間・条件になるように管理している、また、年1回勤務状況等を考慮しての評価制度があり給与等に反映している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の支援制度がある。職員が法人内外の研修に参加でき、資格取得の為のバックアップがある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修は毎年実施し職員が他施設との交流を図りスキルアップにつなげられるような取り組みを積極的に行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを察し、対応、特に言葉かけに注意をし、不安なく過ごせる環境づくりに励んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、本人の主訴に耳を傾けアセスメントをしっかりととり、これまでのご苦勞やこれから始まる暮らしへの不安をしっかりと把握し、望む生活への支援に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況を客観的に把握、整理しながら、どのようなサービスが良いのか提案をしている。必要に応じて関係機関の情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重している。あくまでも自立支援を意識している為、介護する側、される側という意識はなく、共にその人らしい生活を築きあっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしている。家族と共に本人の力に感心を寄せ共に本人を支えているという認識を持っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を家族から聞いておりなじみの人や場所についても把握している為、日常的な会話、散歩時の会話でも意識的に話すようにし、信頼関係を保てるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のやり取りから、相性を見てレクリエーション時の席を決めている。内容によっては孤立しがちな方に対してはスタッフが別メニューに係わるなど孤立させない努力をしている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、他施設入所に関しては退去後の様子を伺うことはあるが継続的には行っていない		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。家族からも話を伺いできる限り意向を汲み取り支援策を検討している。状態の変化があっても利用者本位を忘れず、支援方法に生かしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントツールを使い把握に努めている。また、生活の中でのスタッフの気付きも共有し、より本人を理解する情報として役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケアプランに基づいた1人1人の1日の過ごし方を支援している。カンファレンスでモニタリングをし支援方法を話し合い現状態に合わせたものにして自立を促している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは家族の満足度本人の要望も取り入れケア方針を話し合っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに日々の様子やケアの実践を記録している。また、結果・気づきなどは連絡ノートを活用し全員が確認できるようにしている必要に応じてカンファレンスを実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。職員からの情報、家族の不安の軽減などを考え柔軟に支援している。特に急激な変化については対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方の鉢植えや花壇などを見ながらお話をしリラックスして楽しく暮らしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を優先している。本人のなじみの先生との関係を大切にしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療に関する相談、指導を受けている。必要に応じて往診医への連絡も取ってもらい介護職員の不安を軽減、入居者への適切な看護が受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には治療の経過の把握、本人の不安の軽減の為病院に面会に行き必要に応じて医師との面談も行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。地域の関係者へも運営推進会議にて報告をホームでの支援状況を伝えている。チームで支援する事は現状ではない		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員入社時に救急・初期対応の研修を受けている。継続的に事故の事例等を使い研修を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・自然災害時の協力が得られるよう（自治会が対応できる範囲で）運営推進会議で話し合い理解を得ている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は人格を尊重し本人の現状も肯定的にとらえる努力をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は必ず本人の意志をまずは確認するようにしている。気持ちにより添いつつ必要な促しは多くの声かけ途タイミングを見て行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。また、無理のない支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。必要に応じて家族の協力を得ることもある		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを大切にし参加していただいている。食事の形態にも状態に合わせ配慮している。満足度、安全を心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分量は1日の量が確認把握ができるように記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアにくわえて就寝時には義歯使用者の義歯の消毒を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の意思表示の難しい方については排泄のリズムを把握し誘導している。オムツが必要な方に関してもなるべく失禁をなくすよう声かけ誘導している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の便秘が及ぼす影響を理解し、排便状態を申し送りなどで行い食事水分運動を必要に応じて医師との相談のうえ服薬も取り入れている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	当日の入居者の様子、意志を尊重し柔軟に対応している。必要な方には本人が納得するような言葉かけを行ってみたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の様子を申し送り体力を考慮し時間を決めて休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確認できるよう個別の薬箱には最近の薬の説明書を入れてある。薬の変更は連絡ノートを活用している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている。レクリエーションも好むものが何なのか把握し負担なく楽しめるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日は実施できていないが本人の身体状況を見て目的を持った外出は取り入れている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物同行時に支払いをお願いする事がある。個人で自分のお金を（小額）使っている方は1名いる		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている。希望があれば電話をかける。受け継ぐなど行っている。手紙に関しては家族の協力を得て行っている方がいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れながら落ち着ける飾り付けを心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段はいつも自分が座っている場所がありそこで落ち着いて過ごしているがみんなで話したいときなどはテーブルを囲んでお話ししたりしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ではなじみの環境を重視し本人・家族で準備できるようアドバイスをしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目標を付け表示が分かるように工夫している。職員は理解がどの程度出来るかを把握する為声かけ誘導を行っている		

## 目 標 達 成 計 画

事業所

ツクイ大久保サンフラワー

作成日

平成22年1月1日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	14	職員のスキルアップ	今年も交換研修に参加する	職員が交換研修に参加する事で、他施設のいいところや気付きを学び自分のサービス向上につなげる	10月～12月
2	25	本人が出来ることへの支援	今までやってきたことがこれからも行うことができる	洗濯物たたみや掃除など日々の習慣として行う	1年間
3					2010/3/12
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。